

点訳通信

54号

盲人情報文化センター 点字製作係
550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2
TEL 06-6441-0015 FAX 06-6441-0039

春日舟行

空の日はやうやく熱を増し、
湖の水はみなぎり、氷は裂けた。
はじめての帆が波を分けて進めば、
心は風を受けた帆のように膨らむ。

若き日を浪費した心は
つぐの償ひの旅に逐はれる定め、
春の日ざしが燃えはじめ、
波がまた泡立つとすぐ。

いたづらに過ぎた若き日は悔恨と
とこしへ永遠に満たされぬ憧憬の棲家となり、
心はたえず、又たえず
その春の日を、求めゆく。

髪の毛に霜が降りても、
やがて心はしづまり憩ふ頃とて、
波青むとき、なほも己が唇を求めて、
そぞろ旅行く心にせんかたもなく。

(マイヤア)

読み方調べ

読みやすい本の条件は多々ありますが、その中でも正しく文字が読めるというのは基本中の基本です。長年にわたって編集してきました『読み方調べ』辞書も150万件の登録達成をめざして急ピッチに進めています。

ときどき、点訳者の方から漢字の読みに関する話が聞こえてきます。言葉についての話は面白く尽きることがありませんが、ちょっと、『読み方調べ』辞書を利用してみませんか。たちどころに解決するはずです。もし、辞書に登録されていない「言葉」がありましたらこちらで調べます。遠慮なくお申し出下さい。

校正表を拝見しますと、「辞書」を調べればこんな間違いはしないのになぁ～と思われる個所があり、大変残念な思いがします。

「わからない言葉は2校者にお願いしよう」と言う話もときどき耳にします。2校者の方にはマスあけとレイアウトに関するを中心に見ていただいています。入力する人が、正しく調べて点訳書に反映するのが基本です。ちょっとでも疑問に感じた言葉は辞書で調べる癖をつけていただくようお願いいたします。

『読み方調べ』辞書は数多くの辞書から、あらゆるジャンルの漢字を登録しています。1回の操作で数十冊の辞書を引いたのと同じ結果を得ることができます。一つの熟語にも複数の読みがあり、比較検討しながら「読み方」を決定することができます。ぜひご利用下さい。

『読み方調べ』辞書を家でも使いたい

「『読み方調べ』辞書を家でも使いたい」という希望をいただいています。大変有難い申し出と思えます。ただ技術的には可能ですが、元になった辞書の著者や出版所に著作権や版権があり、ネット上で公開することができません。

不自由ですが、来館したおりにご利用いただきますようお願いいたします。



短歌の書き方について

これまでは短歌の点訳のしかたについて、墨字原本のレイアウトに関係なく書き流しにしてよいと
していましたが、原本のレイアウトも少し反映する形で次のようにすることにします。

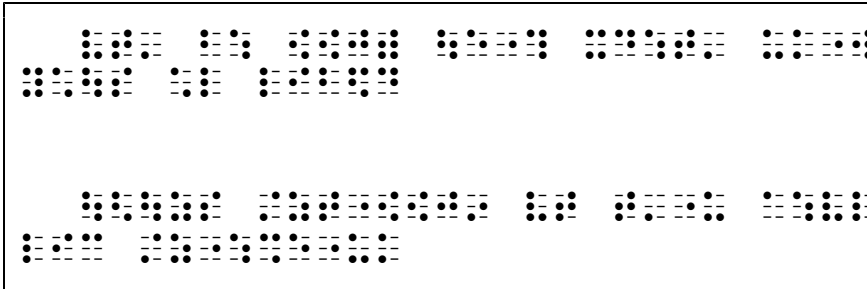
ただし、この原則はおもに典型的な 5・7・5・7・7 調の短歌の点訳のしかたについてのもの
です。

1. 一行書き

原本で短歌が1行に書かれていて、上の句と下の句の区切りがスペースなどではっきりと示さ
れていない場合

3マス目から書き始め、書き流しにする。

人はいさころも知らずふるさとは花ぞ昔の香ににほひける
敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花

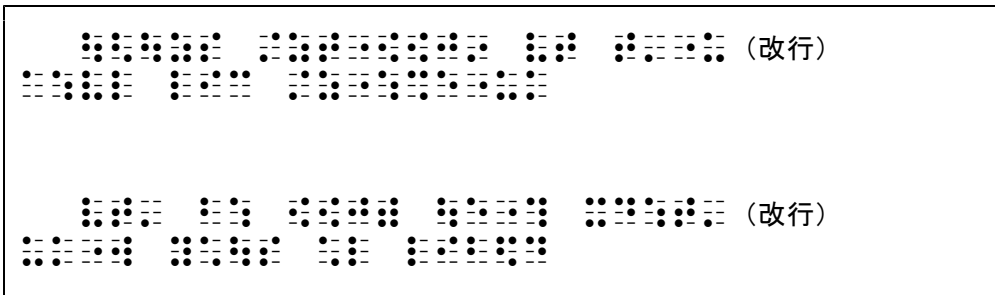


2. 上と下の句に分けられている場合

原本で1行で書かれているが、上の句と下の句がスペースで区切られている場合、及び下の句
の前で改行して2行に書かれている場合

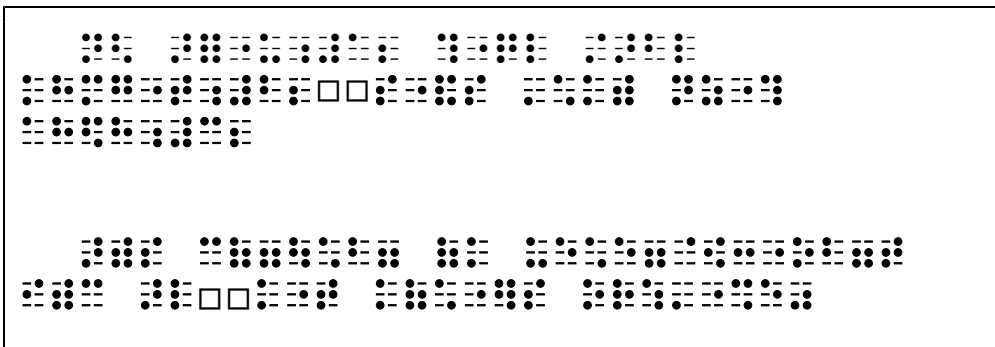
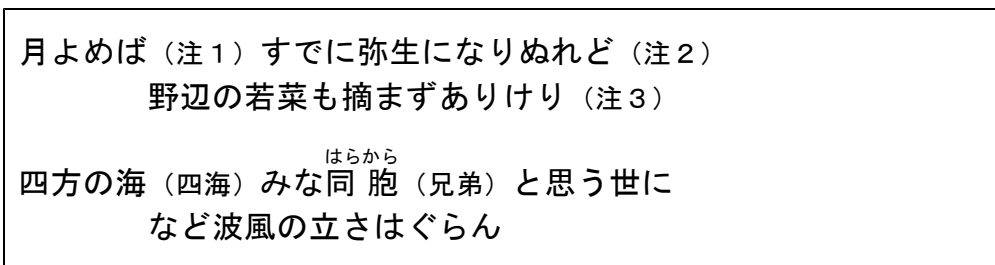
3マス目から上の句を書き始め、下の句を次の行の行頭から書き始める。

敷島の大和心を人間はば 朝日に匂ふ山桜花
人はいさころも知らずふるさとは
花ぞ昔の香ににほひける



3. 上の句が2行にわたる場合

[注意1] 上の句が点字で2行にわたる場合は、下の句の前で2マスあけて続けて書く。



4. 分かち書きされているばあい

[注意2] 原本で 5・7・5・7・7 のそれぞれの間にスペースが入って分かち書きされている場合、原本のスペースを2マスあけにせず、下の句を次の行の行頭から書き始める。

なお、切れ続きは点字の原則にしたがう。

今はただ 思ひ絶えなむ とばかりを 人づてならで
いふよしもがな

⠠今⠠は⠠た⠠だ ⠠思⠠ひ⠠絶⠠え⠠な⠠む ⠠と⠠ば⠠か⠠り⠠を ⠠人⠠づ⠠て⠠な⠠ら⠠で
⠠い⠠ふ⠠よ⠠し⠠も⠠が⠠な

[注意3] 石川啄木の歌のように、原本で3行書きになっている場合は点字も3行書きにする。

長く長く忘れし友に
会うごとき
よろこびをもて水の音聴く

□□ ⠠長⠠く⠠長⠠く ⠠忘⠠れ⠠し⠠友⠠に
□□ ⠠会⠠う⠠ご⠠と⠠き
□□ ⠠よ⠠ろ⠠こ⠠び⠠を⠠も⠠て ⠠水⠠の⠠音⠠聴⠠く

[補足]

教科書及びそれに類する本では、この原則にこだわらず原本のレイアウトを反映した点訳をしてもよい。

参考 自由律短歌の場合

^{しんじん}
身 心脱落などのぞめなくても 新緑あふれる中に やっぱり願わずには
いられない

雑草のいのち 私の命 わけへだてない朝陽につつまれよう

⠠身 ⠠心 ⠠脱 ⠠落 ⠠な ⠠ど ⠠の ⠠ぞ ⠠め ⠠な ⠠く ⠠て ⠠も ⠠新 ⠠緑 ⠠あ ⠠ふ ⠠れ ⠠る ⠠中 ⠠に ⠠や ⠠っ ⠠ぱ ⠠り ⠠願 ⠠わ ⠠ず ⠠に
⠠は ⠠い ⠠ら ⠠れ ⠠な ⠠い
⠠雑 ⠠草 ⠠の ⠠い ⠠の ⠠ち ⠠私 ⠠の ⠠命 ⠠わ ⠠け ⠠へ ⠠だ ⠠て ⠠な ^あ ⠠い ⠠朝 ⠠陽 ⠠に ⠠つ ^ま ⠠れ ^ら ⠠よ ^う

ボランティアの皆さまへ感謝を込めて！

この職場に入って間もない頃、私がきつととても頼りなく見えたのでしょう、「さっき頼んだの、やってくれました？」と何度も念を押される方がいらっしやいました。ちゃんとやってくれているか気になることが、私にもよくわかりました。しばらくするうち、その方が印刷や読み方調べなどを必ず私に頼んでくださるようになりました。信頼していただいたことがとても嬉しく、励みになったことを今も覚えています。

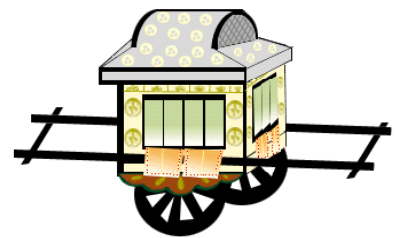
またある時、長く点訳をされている方が「私、やらせてもらってるんだから。」とおっしゃったのを聞いて、その奢りのないお気持ちにハッとしたり、珍しく読者の方からお礼の手紙が届いて「あなたの点訳してくださった本のおかげで、これまでの疑問が解けました。」という内容に目頭を熱くしておられる方のお姿にもらい泣きしそうになったり…、心に響くことがたくさんございました。

「忙しいのにごめんねえ」いつもそう言って話しかけてくださる方が本当にたくさんいらっしやいました。ご自分は手弁当で活動していらっしやるのに、控えめな方が多く、点訳への取り組み方はもとより、人としての生き方も教わった気がいたします。

どんな難しい点訳にもめげない方、いつもきちんと丁寧な点訳をされる方、新しい点訳にどんどんチャレンジされる方、難しい言葉の読みをねばり強く調べられる方、こんなにたくさんの素敵な方々に出会えたことが、この十年間の大きな財産です。大して気働きのできる性格でもありませんのに、本当に優しく温かく包んでいただきましたことに深く感謝申し上げます。これからいつか岐路に立ったとき、皆さまの生き方をきつとお手本にさせていただけると存じます。

どうぞお体をお大切に、これからもご自分らしく、そしていつまでもご活躍されますようお祈りしております。私も新しい部署で頑張ってまいります。本当に楽しい十年間をありがとうございました。

中村 三枝子



▼久しぶりの『てんやく通信』の発刊となりました。▼これを機会に順次刊行していく予定です。▼また、パソコン上で『通信』のバックナンバーやルールなど検索して表示できるように進めています。▼また、日ごろ疑問に思っておられることはありませんか。メモをいただくか『ご意見箱』へ入れていただければ、この紙面を通じて回答させていただきます。もちろん記名・匿名いずれでも結構です。